

あなたの血管は大丈夫？ 動脈硬化測定

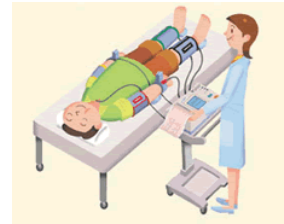
動脈硬化になりやすい素因のある方（高血圧、糖尿病、高脂血症、喫煙など）や高齢の方では年齢以上に進行した動脈硬化が見られることが多く、動脈硬化疾患（心筋梗塞や脳梗塞）を発症しやすいことが知られています。そのため、早期に動脈硬化の診断を行い、治療を開始することが大切です。

動脈硬化の状態を非侵襲的に評価できる方法として、

- 1) 足関節-上腕血圧比 (ABI : ankle brachial pressure index)
- 2) 脈波伝導速度 (PWV : pulse wave velocity)
- 3) 内皮中膜複合体壁厚 (IMT : intima-media thickness) 等があります。

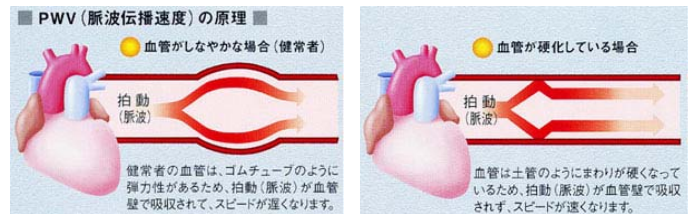
<1. ABIとは・・・>

臥位により、上腕と下肢（足関節）で同時に血圧を測定し、その比率（足首の収縮期血圧／上腕の収縮期血圧）を計算したものです。正常の場合は、臥位では下肢血圧のほうが、上腕血圧より高値ですが、下肢の動脈に狭窄や閉塞を来していると下肢血圧が低下し、ABIが低値になります。ABIの測定値が0.9以下の場合は、動脈硬化による狭窄・閉塞が疑われます。



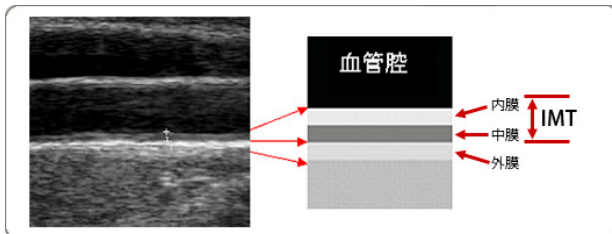
<2. PWVとは・・・>

心臓の拍動（脈波）が動脈を伝わる速度のことです。血管の異なる2点にセンサーをあて、両センサー間の距離と脈波の到達所要時間を計測し計算します（両センサー間の距離／脈波の到達所要時間）。血管壁が硬くなると拍動（脈波）が血管壁で吸収されず、スピード（PWV）が速くなります。すなわち動脈硬化が強くなるほど脈波伝播速度（PWV）が速くなるという現象に基づいて、血管の柔らかさを診断できます。



<3. IMTとは・・・>

IMTは超音波診断装置を用いて計測します。動脈壁は、外膜、中膜、内膜の3層構造です。IMTとは内膜と中膜を合わせた厚さ（内膜中膜複合体）の略です。内膜中膜複合体の厚さは頸動脈の動脈硬化の進行と共に厚くなることが知られています。動脈硬化とは動脈血管壁にコレステロール等が沈着し、血管が弾力を失い硬化するとともに、内腔が狭くなる状態です。IMTが1.1mmを超えると脳血管障害や虚血性心疾患のリスクが高くなると言われています。



動脈硬化は早期発見が重要となります。動脈硬化の進行を放置すると、狭心症・心筋梗塞・脳梗塞・脳出血・閉塞性動脈硬化症などを引き起こす原因となりますので、動脈硬化症の素因をお持ちの方は、無症状でも定期的に検査を行うことが大切です。

*当医院では、ABI,PWV,IMT測定ができます。検査の結果をもとに、治療方針を立てております。検査は予約制になっております。詳しくはスタッフにお訪ねください。